

第1章 プランの策定に当たって

1 畜産新生推進プランの総括

(1) 主な成果と今後に向けた課題

平成28年から5年間取り組んできた「宮崎県畜産新生推進プラン」では、防疫体制の強化を柱に3つの視点である「生産力」の向上、「人財力」の強化、「販売力」の強化に取り組み、その結果、令和元年の本県農業産出額は3,396億円と全国5位に位置し、そのうち畜産部門においては、2,200億円を超えるなど、全国3位を維持しています。

主な成果として、「生産力の向上」では、肉用牛の繁殖雌牛頭数目標の8万頭を平成29年に前倒して達成し、現在も増頭傾向で推移するなど生産基盤の強化が図られています。一方で、各畜種における生産性向上の取組では、肉用牛の分娩間隔など目標に対して未達成の項目もあり、更なる取組の強化が必要です。

また、「人財力の強化」では、畜産マスターの育成が計画を上回る実績となり、指導者確保が一定程度、進展していますが、次のステップでは、畜産マスターから県内その他の技術者育成に向けた横展開が求められます。

次に「販売力の強化」では、海外輸出に係る国の施策に基づき、最新鋭の食肉処理施設と食鳥処理施設が相次いで新設されたことにより、特に県産牛肉の輸出が毎年、過去最高を更新するなど飛躍的に増加したところです。今後は動物福祉（アニマルウェルフェア）への対応等、輸出先国の求めに的確に対応するとともに、新たなマーケットの確保等により更なる輸出の拡大を図ります。

これらの取組を根底から支える防疫体制の強化については、近年、海外でアフリカ豚熱（ASF）や口蹄疫が続発していることに加え、国内での豚熱（CSF）のまん延や高病原性鳥インフルエンザの発生など常にリスクを抱え、見えないウイルスとの戦いは畜産県である本県の宿命であります。引き続き「常在危機」の意識を高めるべく、「みやざきの家畜防疫4本柱」である「水際防疫」、「地域防疫」、「農場防疫」及び万一の発生に備えた「迅速な防疫措置」による取組を一層、強化しながら、「全国モデルとなる安全・安心で付加価値や収益性の高い畜産の構築」に、生産者はもとより、関係機関・団体と一体となって取り組むことが重要です。



第11回全国和牛能力共進会（宮城大会）
3大会連続内閣総理大臣賞獲得（チーム宮崎のメンバー）

第1章 プランの策定に当たって

(2) 目標の達成状況

畜産新生推進プランの主な目標数値及び達成状況

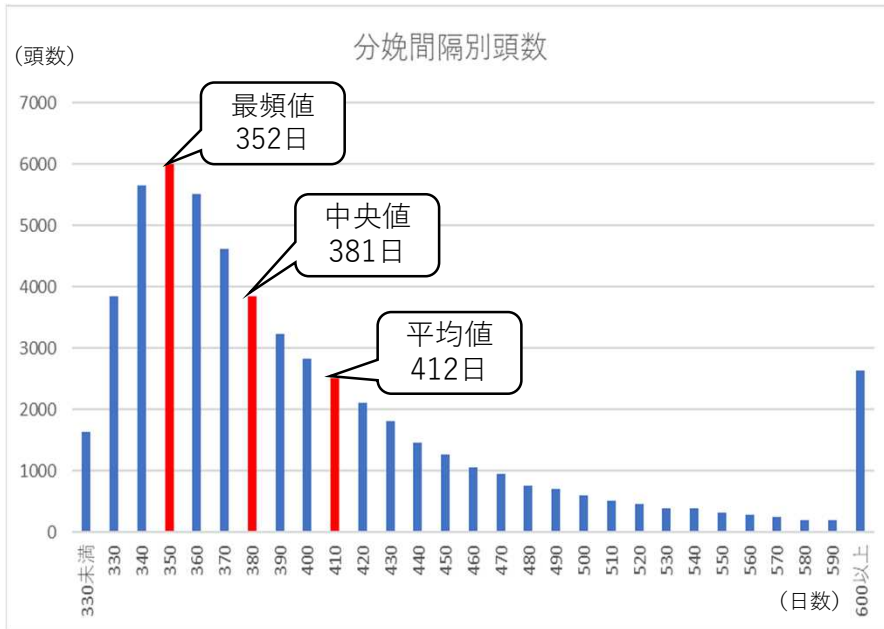
項目				H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2		
生産力の向上	生産基盤の強化	肉用牛	繁殖雌牛頭数	頭	計画	77,000	77,500	78,000	78,500	79,000	79,500	80,000
				実績	77,000	75,800	78,800	80,600	83,200	85,700	82,900	
				達成率	100%	98%	101%	103%	105%	108%	104%	
		肉用牛	肉用牛繁殖基盤強化を支援する施設数	施設数	計画	13	14	16	18	20	22	23
				実績	13	14	16	21	22	23	21	
				達成率	100%	100%	100%	117%	110%	105%	91%	
	酪農	生乳生産量	トン	計画	87,126	87,605	88,084	88,563	89,042	89,521	90,000	
			実績	87,126	86,416	84,955	80,252	79,388	77,542	79,296		
			達成率	100%	99%	96%	91%	89%	87%	88%		
	生産コストの低減	飼料作物	飼料作付け面積 (WCS、飼料用米含む)	ヘクタール	計画	32,200	33,300	33,800	34,100	34,400	34,700	35,000
				実績	32,200	33,300	34,000	34,200	33,900	33,600	33,100	
				達成率	100%	100%	101%	100%	99%	97%	95%	
飼料作物		飼料作付生産の受託を行うコントラクターの受託面積	ヘクタール	計画	3,130	3,350	3,600	3,900	4,200	4,500	4,800	
			実績	3,130	3,705	3,719	3,844	4,068	4,118	9月確定		
			達成率	100%	111%	103%	99%	97%	92%			
エコフィード	エコフィード仕向け量 (焼酎粕)	千トン	計画	128	130	132	134	136	138	140		
		実績	128	120	124	124	116	26	10月確定			
		達成率	100%	92%	94%	93%	85%	19%				
生産性の向上	肉用牛	分娩間隔	日	計画	417	411	405	399	393	387	380	
			実績	417	417	407	406	406	409	412		
			達成率	100%	99%	100%	98%	97%	95%	92%		
	酪農	経産牛1頭あたり年間乳量	kg	計画	8,298	8,448	8,598	8,748	8,898	9,048	9,200	
			実績	8,298	8,349	8,329	8,078	8,283	8,124	8,137		
			達成率	100%	99%	97%	92%	93%	90%	88%		
	養豚	1母豚当たり年間出荷頭数	頭	計画	16.0	17.0	18.0	19.0	19.5	19.8	20.0	
			実績	16.0	16.8	17.5	17.2	18.4	17.9	19.9		
達成率			100%	99%	97%	91%	94%	90%	100%			
みやざき地頭鶏	みやざき地頭鶏雛譲渡羽数	羽	計画	706,660	738,883	771,106	803,329	835,552	867,775	900,000		
		実績	715,520	724,490	706,660	613,839	564,040	499,932	268,213			
		達成率	101%	98%	92%	76%	68%	58%	30%			
人財力の強化	育成	人材	畜産経営・技術分析システム(産地分析)参加農家数	件	計画	628	790	820	840	860	880	900
				実績	949	783	787	788	786	779	812	
	達成率	151%	99%	96%	94%	91%	89%	90%				
	指導者確保	人材	高度な指導力を有する畜産マスターの育成	人	計画	12	12	30	30	30	30	30
実績				12	13	30	33	35	32	33		
達成率	100%	108%	100%	110%	117%	107%	110%					
販売力の強化	指定店数	牛肉	宮崎牛指定店数	店舗	計画	487	510	490	495	500	505	510
				実績	466	488	496	539	558	548	554	
				達成率	96%	96%	101%	109%	112%	109%	109%	
		豚肉	宮崎ブランドポーク指定店数	店舗	計画	122	170	180	190	192	195	200
				実績	122	182	187	190	220	227	236	
				達成率	100%	107%	104%	100%	115%	116%	118%	
	みやざき地頭鶏	みやざき地頭鶏指定店数	店舗	計画	195	204	213	222	231	240	250	
			実績	195	205	210	224	217	210	188		
			達成率	100%	100%	99%	101%	94%	88%	75%		
	輸出	牛肉	牛肉輸出量	トン	計画	129	136	250	280	320	360	400
実績				148	208	280	394	470	483	686		
達成率	115%	153%	112%	141%	147%	134%	172%					
関連産業	製造	最新鋭食肉・食鳥処理施設の整備数	か所	計画	0	0	0	0	0	1	2	
			実績	0	0	※(2)	※(2)	1※(1)	2	2		
達成率	0%	0%	0%	0%	100%	200%	100%					

※() 着手後整備中の件数を示す

第1章 プランの策定に当たって

(3) 主要指標の分析

① 分娩間隔（肉用牛：生産性の向上）

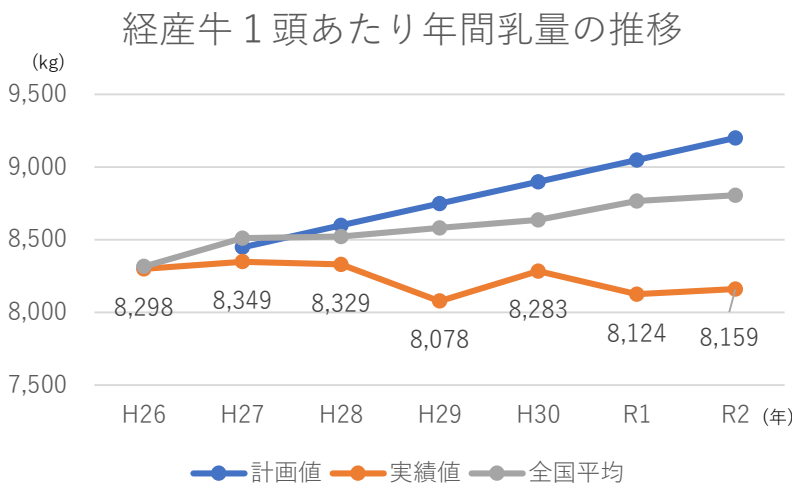


【分析結果】

- 令和2年度の分娩間隔の平均値は412日と延長傾向の中、最頻値は352日であり、過半数の牛が381日以内で分娩をしている。
- 平均を引き上げている要因は、600日を超える長期不受胎牛（ドナー牛を含む）の存在であり、1年1産の場合と比較すると37万円ほどの子牛生産費増となる。
- 県内平均である412日を超える繁殖雌牛が全頭改善された場合、分娩間隔平均値を364日に短縮することができる。
- そのため、分娩間隔を延ばしている長期不受胎牛に対する取組（淘汰・更新・繁殖管理の改善）が重要と考える。

出典：宮崎県畜産協会調べ

② 経産牛1頭当たり年間乳量（乳用牛：生産性の向上）



【分析結果】

- 本県の経産牛1頭あたりの年間乳量は、直近(R2)で8,159kgと計画に対して伸び悩んでいる状況。（都府県においても同様）
- 要因としては、暑熱被害が大きかった年の翌年の乳量減少が見られるため、乳牛にかかる暑熱ストレスの影響が大きいと考えられる。
- 一方で加入率90%である牛群検定による305日乳量は、年々向上しており、実際の泌乳能力を反映していると考えられるため、指標の変更が適当と考える。

牛群検定による305日乳量の推移（宮崎県）

(単位：kg)

H27	H28	H29	H30	R1	R2(速報)
9,454	9,525	9,427	9,510	9,509	9,606

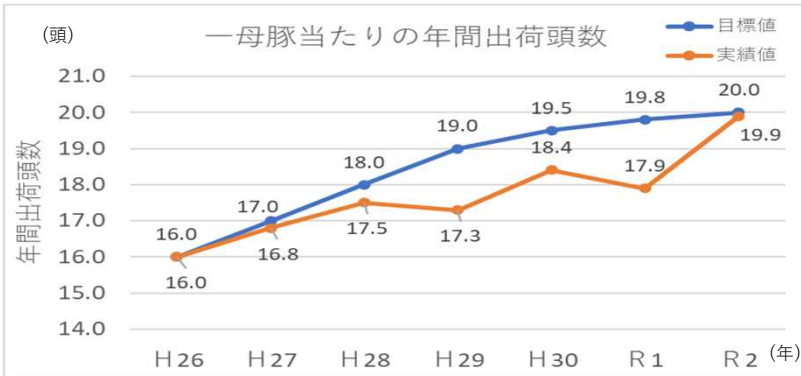
家畜改良事業団調べ

第1章 プランの策定に当たって

③ 1母豚当たり年間出荷頭数（豚：生産性の向上）

【現状の算出方法】

※一母豚当たりの年間出荷頭数の算出
 （宮崎と畜頭数+鹿児島と畜頭数）／畜産統計の母豚数



【分析結果】

- これまでは統計数値（推定値）を用いた算定であり、基準年16頭に対して、目標を20頭としていたが、農場でのベンチマーキングの成績等と比較すると、実態との乖離が考えられる。
- 経済連ベンチマーキングにより経営的に事故率低下が見られ、母豚当たり出荷頭数の増加が図られている。
- そのため、今後は、本県養豚を牽引するベンチマーキング参加農場と畜産クラスター事業活用農場の実績データを用いた指標が適当と考える。

【その他視点での分析】

① J A 宮崎経済連におけるベンチマーキング（農場技術指標）

年度	H30	R1	R2
農場数	54	50	41
1母豚当たり出荷頭数	20.3	18.8	20.5

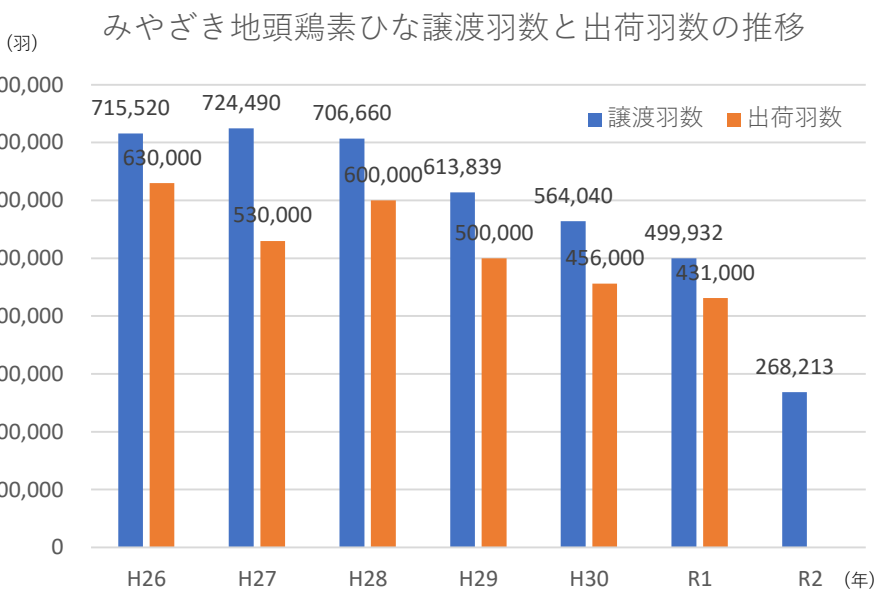
② 畜産クラスター事業活用農場における成績

年度	R2
農場数	20
1母豚当たり出荷頭数	21.2

※集計農場のうち、系統3農場・商系17農場
 クラスター事業の実施年度はH28～R2

※参加者は系統がメイン、農場数は肥育も含む

④ みやざき地頭鶏素ひな譲渡羽数（鶏：生産性の向上）



※R2の出荷羽数は、未確定

【分析結果】

- 地鶏ブームであったH27をピークに、その後外食需要が減退してきたことから、譲渡羽数も減少傾向にあった。加えて、R2当初からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外食店等の営業自粛が重なり、直近では前年の半分程度にまで減少している状況。
- そのため、在庫保管支援や内食向けの販売PRの対策に取り組み農家の離農は未然に防げたものの、今後の増羽に向けた対策が重要な課題となっている。
- 今後は、素ひな譲渡羽数よりも農家所得に直結する出荷羽数（推計）を指標とし、生産力の向上を図る必要がある。